

令和4（2022）年度 第2回かしわざきこども大学運営協議会 議事録

- * 日 時 令和4（2022）年10月18日（火） 午後6時30分～午後7時15分
- * 会 場 柏崎市役所 4階 4-3、4-4会議室
- * 出席委員 7名 長谷川智委員、片桐秀樹委員、山崎高美委員、前澤佳奈子委員、遠山みちる委員、川本浩子委員、土田由紀委員
- * 欠席委員 松谷久美子委員、猪爪拓也委員
- * 事務局 9名 宮崎靖彦教育部長、【学校教育課】池田弘課長、小山勲課長代理、平野克之副主幹、横田則子主査、樋口希主事【保育課】栗林弘至課長代理【商業観光課】佐藤駿介主事、土田洸希主事

1 開会 司会：小山課長代理

本日、松谷委員と猪爪委員のお二人は都合により欠席。かしわざきこども大学運営協議会設置条例第6条第2項により過半数を満たしていることを報告する。

2 挨拶 長谷川智会長

第1回の運営協議会が6月に開催され、今後どうするか、基金が底を尽きるまでやるのか、減額して続けるのか話があった。今回は、今年度の事業実施状況と来年度の事業実施予定を審議いただくが、委員の皆様から忌憚のない御意見を伺いたい。

3 議事 進行：長谷川智会長

(1) 令和4年度（2022年度）事業実施状況について

・自然体験コースについて

【事務局】

新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の予定から日程を変更して実施した園が数園あったものの、ほぼ予定通り実施している。これまでに30園中28園が実施。なお、利用を検討していたはまなす特別支援学校からは、今年度は利用しないということで連絡があった。

どの体験活動についても、普段の園生活だけでは体験できない活動メニューであり、楽しく貴重な経験ができたといった報告が提出されている。

・ロボット工作コース

【事務局】

今年度も5校で実施しており、新型コロナウイルス感染症の大きな影響もなく、予定通り学生が来校して指導を実施できている。

工作教室と交流競技会については、昨年度新型コロナウイルス感染症の影響で中止となってしまったが、今年度は実施したい。

・キャリア教育コース（いきいきゲーム）

【事務局】

今年度は、翔洋中等教育学校2クラスで実施済み。

他の3校について、新型コロナウイルス感染症は落ち着いており、予定どおり実施の見込み。

参加生徒からは、「相手のチームでも協力して物事を進めることが大事だと思った。」「働くことの大変さ楽しさを実感でき、とても良い経験になった。」という感想があった。

先生方からは、「生徒の仲が深まった。」「最初は動けなかった生徒が少しずつ行動するようになってよかった。」という感想があった。

また、保護者サポーターの方からは、「子どもたちのキラキラした目と集中力を身近に見ることができた。要領の良さと短時間での成長に感心した。」という感想があった。

残りのゲームについても、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで実施していきたい。

・いきいきゲームの講師研修について

【事務局】

第1回の運営協議会で委員より質問のあったいきいきゲームの講師研修について、一度講師になった方については、その後研修の必要はないが、講師の高齢化等により2015年に講師の再募集を行っている。その際の講師研修に係る費用について、ウィルシードから資料を提供いただいた。育成人数5人までで70万円以上かかるが、講師を派遣してもらう場合、2～3回実施すると講師の育成料より高くなるという話を聞いている。

・ドリームコース

【事務局】

9月に再度実施者の公募を行ったが応募がなかったため、今年度は実施しない。なお、第1回の運営協議会で委員より質問のあったドリームコースのこれまでの実績について、一覧を資料5として配布したので御確認願いたい。

・科学・実験コース

【事務局】

今年度は2回講座の開催を予定しており、1回目が10月8日（土）に実施された。今回は小学1～3年生44名とその保護者が参加。申し込み開始から3日足らずで定員に達したとのことで、大変好評だった。4つのブースが開かれ、大学生が子どもたちに丁寧に説明してくださり、子どもたちも楽しそうに取り組んでいた。負担金9万円を支出する見込み。2回目は3月に開催予定。

・基金を活用し事業を行っている他市の状況について

【事務局】

第1回の運営協議会で委員から質問のあった他市の状況について、県内でこどもと名の付く基金のある自治体は見つからなかったが、他県には多数あり、使い道としては子どもの貧困対策に活用している自治体が多くあった。柏崎市と同じように子どもの育成のための事業に活用している自治体もあった。事業の運営方法も様々で、同じ基金を使って複数の課がそれぞれ事業を行う、事業は固定ではなく毎年異なることを実施するという自治体もあった。基金の積み立て方法についても、多額の寄付で基金が成り立つ自治体もあれば、寄付額と同額を市の予算から積み立てるといった自治体もあった。他市の状況なども参考にしながら、今後のかしわざきこども大学と、かしわざきこども育成基金について検討していきたい。

－質疑・応答－

なし

(2) 令和5年度（2023年度）実施予定事業、予算案について

資料3に基づき説明。

【事務局】

第1回の運営協議会で、予算規模縮小のイメージ案をお示ししたが、そこから少し修正を加え、令和5（2023）年度の予算案を作成した。

自然体験コースは、近年の参加人数からプログラム負担金を12万円減の28万8千円に、バスの借り上げ料について今年度の実績に基づき90万円とした。

キャリア教育コースは、もともと15クラスで予算をみていたところを10クラスに減らし、それぞれの費用を算出した。

ロボット工作コースは、136万円だった予算を100万円とした。担当の新潟工科大学大金先生とも相談し、ロボット工作教室をやめるなどして対応が可能とのこと。

科学・実験コースは、一昨年までSTKサイエンスに実施いただいていたが、事業をやめられたため、昨年からは新潟工科大学にお願いして実施いただいている状況である。同じ学校教育課と新潟工科大学が実施している事業で科学のえんま市があるということ、委員の皆様から回答いただいたアンケートでも優先順位が低かったということから、科学・実験コースについては廃止とした。

ドリームコースは、実施者が集まらないこと、委員の皆様から回答いただいたアンケートでも優先順位が低かったことから廃止とした。

こどもの笑顔創造プロジェクトは、補助の上限を30万円から20万円に変更して予算額を220万円とした。

学校教育活動推進事業は、事業への充当ということで他のコースとは性質が異なるため、現状のままとした。

運営協議会は、お茶代を廃止とした。

合計の予算額は7,548,800円。今年度の決算見込み額は約780万円程度であるため、変更後もそこまで大きな混乱はないのではないかと予想している。

一 質疑・応答

【委員】 予算はかしわざき子ども育成基金から出ているわけだが、市からの単独補助はないのか。

【事務局】 市からの補助はない。

【委員】 キャリア教育コースは15クラスから10クラスに縮小とあるが、10クラス以上希望があった場合対応可能か。

【事務局】 1～2クラスといった少数であれば柔軟に対応したい。

【委員】 先日、2021年度の実施報告書を頂いた。年々改善され見やすくなってきた。実施報告書は学校や保育園にも配布されているのか。印刷費はどうしているのか。

【事務局】 実施報告書は230部印刷し、市内全ての保育園・幼稚園、小中学校、コミュニティセンター、市長、副市長、市議会議員、報道機関など関係各所に配布している。印刷は学校教育課の予算で行っている。

【会長】 令和5（2023）年度の予算案について、皆様からの御意見がなければ、この額で要求し、3月の協議会で結果が示されるということによいか。

【事務局】 その通り。

4 連絡事項

【事務局】

(1) こども育成基金への寄附報告

資料4に基づき説明

今年度は、東芝エネルギーシステムズ株式会社から月1回ずつ御寄付をいただいている。また、9月20日（火）に北日本エンジニアリング株式会社から20万円の御寄付をいただいた。現時点での寄附の合計は464,312円。北日本エンジニアリング株式会社からの御寄付については、柏崎日

報に記事が掲載されたので、資料7を御覧いただきたい。

(2) 今後のスケジュールについて

- ・第3回運営協議会は、来年3月上旬に開催予定。(令和4(2022)年度実施事業の報告)
- ・本日の報酬と交通費は、11月21日(月)に振込予定。

(3) その他

【委員】 キャリア教育コースについて、講師研修費用の資料を提示いただき高額だということがわかった。もし講師を引き受けてくれる人が見つかって、講習を受けていただいたとして、その後何年いきいきゲームが続けられるかという懸念がある。今後については、講師を探してみても、あるいは現講師の方がどれくらい続けてくださるかに依るところか。

【事務局】 20周年まではかしわざきこども大学を継続する方向であるため、少なくともそこまでは現講師の方に続けていただきたいと考えている。その後、各学校で続けるのか、キャリア教育コースを別に続けるのかは議論すべき課題である。講師の育成だけはしておいて、希望する学校があれば教材費等は学校で負担してもらい続けていくというのも一つの方法ではあると思う。

【委員】 継続に向け上手く予算減されていると思う。

柏崎には素晴らしい文化や施設が多数あるが、いつどこで誰がそれを子どもたちに伝えていくか、次世代に繋いでいくためにどういった切り口があるか考える機会があるといい。

【事務局】 柏崎にいと近いところの魅力に気付かない部分がある。文化・生涯学習課では子ども向け、エイジレス向け、シニア向けなど様々な講座を開設しており、子ども向け講座の中で伝えていく機会を考えていきたい。

【委員】 基金がなくなったとき、今までやっていた事業をどうするのか。どこからお金を出すのか、市の方で検討してもらえるのか。

【事務局】 先日、補助金検討委員会が開催され、検討委員の方はかしわざきこども大学の良さを把握しており、内容を精査したうえで事業を継続する方向で検討するよう話があった。ふるさと応援基金を充当してはどうかという意見も出た。今後二役等と協議して決めていくことにはなるが、こういった案もあるということでお伝えする。まだ案の段階ではあるが、財源確保に光が見えた。かしわざき子ども育成基金が尽きてから充当するのか、かしわざき子ども育成基金を残しながら今から積み立てていくのかについても今後検討していく。

【委員】 すごくありがたいお話。いきいきゲームについては、第二中学校はPTAの行事の一つになっていて、PTAの予算などで続けていければいいな、そのためには学校の理解がないとできないなと思っていたので、いい話が聞けて嬉しい。

5 閉会 宮崎教育部長

今回は各種事業の取り組み状況について報告をさせていただいた。概ね事業の目的を達成する取り組みがなされていると思っている。年度末まで予定されている事業についてもしっかりと実施できるよう、事務局として支援していきたい。寄附について大変ありがたく感じている。柏崎市の最上位計

画である第5次総合計画の後期基本計画が今年度から4年間の計画でスタートした。重点戦略の一つが「子どもを取り巻く環境の充実」となっている。狙いとして、将来の柏崎を担うふるさと柏崎を愛する子どもたちを育むこと、さまざまな社会環境の下で生き抜く力を育む教育を推進することが掲げられている。かしわざき子ども大学事業を運営していくことは、この戦略の狙いに合致している。これからもかしわざき子ども大学事業が適正に運営していけるよう、委員の皆様から御意見、御提案を賜りたい。